

産学交流会 STEP2

実施報告書

日時：平成27年2月23日（月）

13：30～17：30

会場：大阪府立大学 I-site なんば 2F

カンファレンスルームC1～C3

産学交流会 STEP 2 “ホンネで語る！” 企業と学生の交流会

主旨

- ・産学交流会は、文部科学省の「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に参加している大学と大阪府の「産学官連携による実践的キャリア教育専門家育成事業」及び堺市の「さかいJOBステーション事業」の連携により開催しています。
- ・大学生を産業人材へと育成するキャリア教育、キャリア支援のあり方について、大阪府内中小企業の経営者と大学関係者（キャリア教育を担当する教員及びキャリア支援に携わるキャリアセンターの職員や学生）が、率直な意見交換をするとともに、産学が連携して実践できるプログラム（インターンシップの多様化、アクティブラーニング、PBLなど）の構築を図ります。また、プログラムの実践をとおして、大学生のキャリア教育、キャリア支援のプラットフォーム化をめざします。
- ・H26年11月にSTEP1として中小企業の経営者とキャリア教育を担当する教員及びキャリア支援に携わる大学職員との産学交流会を開催し、今回はSTEP2として企業と学生の意見交換を中心とした産学交流会です。

実施概要

- 対象：① 大阪府内中小企業の経営者、人事責任者
② 産官学地域協働連携会議の参画大学を中心とする大学の学生（1回生～4回生）
③ 大学のキャリアセンターの教職員

- 目的：① 大学生の就職活動における中小企業に対するホンネを知る。
（例：企業イメージ、企業選びの基準 など）

- ② 企業の考えと学生の想いのギャップを知る。
③ 企業、学生のギャップを埋めるプログラム（キャリア支援）を探る。

- 内容：● 企業と学生が「新卒学生の採用・就職活動」をテーマに意見交換する。
・キャリアセンターの教職員はオブザーバーとして参加し、企業と学生の間にあるギャップ（就職、仕事、働くことなどに関する意識の違い）を知る。
・キャリアセンター教職員は、これらギャップを埋めるために、どのような支援が必要なのか、どのような取り組みができる可能性があるのかを探る。
● 企業と学生の意見交換後、キャリアセンター教職員が気づいたことを述べる。

日時：2月23日（月）
13:30～17:30

場所：大阪府立大学 I-site なんば
カンファレンスルームC1～C3

参加：

	企業数 大学数	参加人数
企業	14	16
大学	12	25
参加学生	13	30
聴講学生	4	4
行政・その他	2	11
計		86

【STEP2 当日のスケジュール】

- 13:30～13:35 『産学交流会』開催のあいさつ
13:35～14:25 ① 企業：「新卒学生の採用における企業のホンネ」
14:25～15:15 ② 学生：「就職活動における学生のホンネ」
15:15～15:35 ～休憩～
15:35～16:35 ③ 企業×学生 ※CC
グループディスカッション
「企業理解について」
16:35～17:00 <発表、共有、理解>
17:00～17:10 『産学交流会』閉会のあいさつ
17:10～17:40 自由交流 名刺交換会

《開催のあいさつ》：堺市産業振興局商工労働部 雇用推進課 課長補佐 小走 伸吾 氏

【全体進行】：一般財団法人大阪労働協会

彼杵 俊明



《発表風景》



1.【企業】：「新卒学生の採用における企業のホンネ」

●介護老人保健施設クローバー悠苑 総務部 廣田 賢 氏



- “ありがとう” が “力” となる業界。やりがいがあり、人としての成長がある。とにかく一度 来て！見て！聞いて！ まずは、知ることから。

●中尾食品工業株式会社 代表取締役 中尾 友彦 氏



＜経済を活性化していくのは、＞

1. 誰もが使いたいサービスを提供し、その顧客層が国内外に展開している企業。
2. ニッチな業種（特定の分野において、高い技術力で世界的なシェアを誇る中小企業）
3. 「自分の価値の最大化」を目指す人（動く人）を満足させるサービス、商品を展開する企業。

●日新情報システム株式会社 代表取締役 谷本 信之助 氏



- 《欲しい人材》
- 健康な人⇒肉体的、精神的。
 - 克己心⇒根拠なき自身を持って、それを実現すべく努力できる人。
 - 好奇心の旺盛な人⇒世の中のすべての事象に関心を示す人。

2. 【学生】：「就職活動における学生のホンネ」

●大阪成蹊大学 河野 裕子氏 ～私らしい就活を考える～



- 業種、業界にこだわらなくていい。⇒ 会社がよければきっと楽しい。
- やりたいことだけでは楽しくない。⇒ 未知の領域で挑戦するドキドキ感が大切！
- 答えは3年後に分かる。⇒ 今の最善を選ぶだけ。

●関西外国語大学 杉原 航輝氏 ～自分の軸を明確に～



- 「入社はゴール」ではない！
- 就活は、自己実現のための一つの過程。
- 入社後どのような仕事ができ、何を学べるかを重要視。

●芦屋大学 岡田 健汰氏 ～就活に夢と希望をもって～



- 人に自信をもって語る、学生時代に学んだ自分だけの経験＝財産。
- 入社して何がしたいのか、を明確にする。
- 挫折経験から、どのように成長し、何を獲得したのかを知る。

3. グループディスカッション

【ファシリテーター】：株式会社パーソナルヴィジョン研究所

日並 昭夫 氏



テーマ：「企業理解について」

- 学生ニーズを知る
 - 企業と学生のギャップを知る
 - ※ CC職員はオブザーバー

● 「企業理解を深めるために、企業と学生が協力してできること」について、

⇒意見交換をする 企業×学生 ※CC

⇒プログラム（産学が連携して実践）を考える

インターンシップの多様化

アクティブラーニング

PBL など、キャリア支援を探る

⇒全体で共有する。

《グループA》
「ディスカッション」



「発表」



《グループB》
「ディスカッション」



「発表」



《グループC》
「ディスカッション」



「発表」



《グループD》
「ディスカッション」



「発表」



《グループE》
「ディスカッション」



「発表」



《グループF》
「ディスカッション」



「発表」



《グループG》

「ディスカッション」

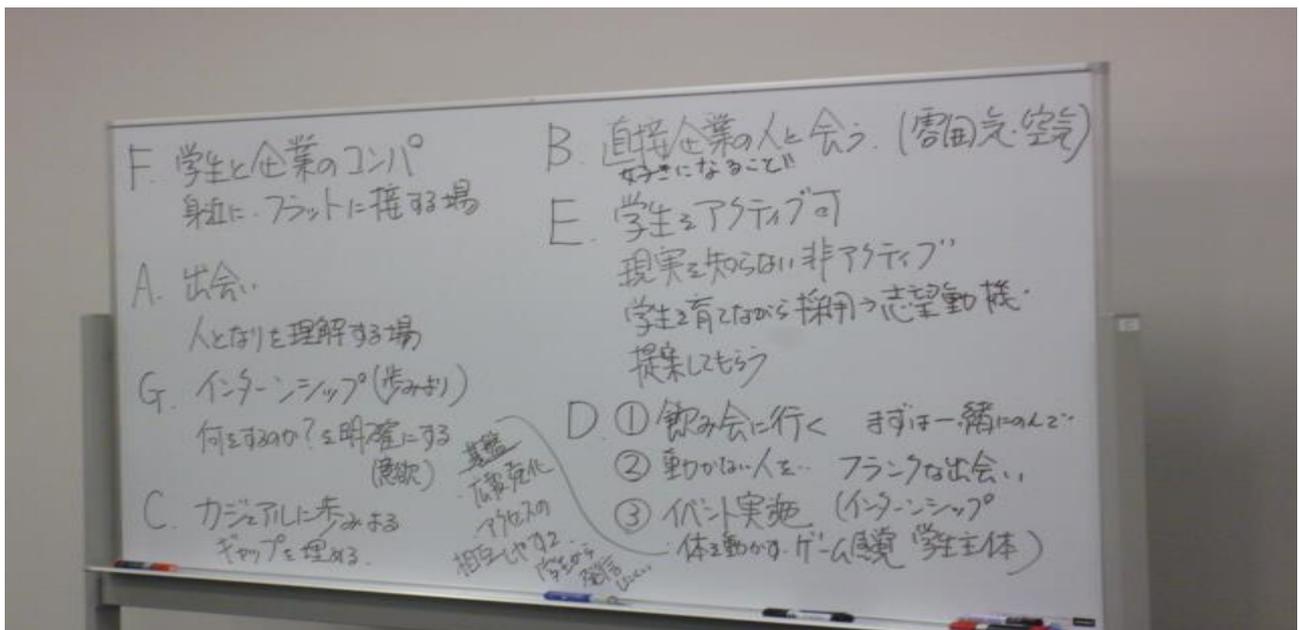


「発表」



【ディスカッション グループ別：まとめ】

《「企業理解を深めるために、企業と学生が協力してできること」について》



Aグループ：出会い

人となりを理解する場

Bグループ：直接企業の人と会う（雰囲気、空気）

好きになること！！

Cグループ：カジュアルに歩み寄り

ギャップを埋める

Dグループ：飲み会に行く まずは、一緒に飲んで

動かない人を…フランクな出会い

イベント実施（インターンシップ、体を動かすゲーム感覚 学生主体）

Eグループ：学生をアクティブ化
現実を知らない非アクティブ
学生を育てながら採用 → 志望動機・提案してもらう

Fグループ：学生と企業のコンパ
身近にフラットに接する場

Gグループ：インターンシップ（歩み寄る）
何をするのか？ を明確にする（意欲）

<まとめ>

- 学生は企業の人とのグループ討議の機会はほとんど無く、企業の人々の考え、悩みが聞けたこと、又、他大学の学生の意見を聞けたことはこれからの就活の参考になった。
- 企業や仕事を理解するためには、インターンシップの機会が有用であるが、何をするのかを明確にして、意欲を持って参加する必要がある。
- アクティブな学生と非アクティブの学生がおり、非アクティブな学生を企業として育てる面接、採用活動ができないか。
- 企業と学生の接点が、合説、採用面接などで、なかなかホンネの話ができないが、もっとカジュアルで身近に接する出会いの場があればよい。（例：企業と学生のコンパ・飲み会・食事会、体を動かすゲーム感覚のイベント、学生主体で企業に企画提案するインターンシップ等々）

《閉会のあいさつ》：大阪府商工労働部雇用推進室 室長 乾 俊人 氏

～「就活は最大の競争」～

《自由交流会》

